

学びのエリア桜川学園 板橋区立桜川小学校 板橋区立桜川中学校

研究主題

『 自分の考えや思いを表現できる子どもの育成 』

研究構想図

桜川小学校教育目標

- 助け合う子ども
- 考える子ども
- たくましい子ども

学びのエリア桜川学園における子どもの課題

- ・学級活動において、9年間を見通した系統的な指導が十分にできていない。
- ・一人ひとりの児童・生徒に多様な他者と協働するための行動が十分に身に付いていない。
- ・課題を解決するために必要な資質・能力が十分に身に付いていない。

桜川中学校教育目標

- よく考え実行する生徒
- 心の豊かな視野の広い生徒
- 健康でたくましい生徒

研究主題

『 自分の考えや思いを表現できる子どもの育成 』



桜川小 マスコットキャラクター  
「さくらガエル」「さくらがわんこ」

学びのエリアがめざす子ども像

- ①自分の考えや思いを表現できる子ども
- ②主体的に考え、課題をやり遂げる子ども
- ③地域の中で育ち、地域で活躍する子ども



学びのエリア桜川学園  
ゆるキャラ 「さくらガワウソ」

手だて①

○自分の考えや思いを表現させるための工夫

- ・学びのエリアで、議題の出し方・学級会のもち方の工夫を共有し、系統性のある学級活動の取組を実践する。

手だて②

○自分の考えや思いを実現につなげていくための工夫

- ・小中連携研修を通し、学級活動（1）で身に付ける能力・資質の共通理解を図る。
- ・学びのエリアで取り組むことで、願いが形になることに安心感をもたせ、見通しをもてるようにする。

はじめに 板橋区立桜川中学校長 関屋裕之

平成30年7月に国立教育政策研究所が作成した指導資料には、特別活動の充実により学校生活に期待される効果として「学力向上につながる」と明記されています。その理由として、①学級会などで身に付けた集団で問題を解決していく力は、各教科等の学習に生かされる。②自主的によりよい生活や人間関係を築くことにより、学び合う学級の雰囲気がつくられ、学ぶ意欲が高まる。としています。

そこで「学びのエリア 桜川学園」では、「小中一貫による学力向上」をめざし、平成31年度（令和元年度）から板橋区研究指定校として、特別活動における学級活動に焦点をあて研究を進めて参りました。

## 小学校での実践

<低学年分科会> 第1学年 学級活動(1)「クラスみんなでやりたいことを考えよう」  
第2学年 学級活動(1)「友だちのいいところ見つけ大作戦を考えよう」

### ①自分の考えや思いを表現させるための工夫



学級会ノートに事前に意見を書くことで、全員が意見をもって話し合いに参加できた。

### ②自分の考えや思いを実現につなげていくための工夫



学級会コーナーを設けることで、自分たちの考えたことが実現されていく過程を視覚的に捉えられた。

<中学年分科会> 第3学年 学級活動(1)「思い出すごろくをつくろう」  
第4学年 学級活動(1)「団結力アップ集会をしよう」

### ①自分の考えや思いを表現させるための工夫



提案理由からキーワードとなる言葉を取り上げ提示することで、話し合いを焦点化できた。

### ②自分の考えや思いを実現につなげていくための工夫



学級のあゆみコーナーの設置によって、実践の経過を視覚化し、合意形成する良さを実感できた。

<高学年分科会> 第5学年 学級活動(1)「ソーラン節の大漁旗をつくろう」  
第6学年 学級活動(1)「学級旗をつくろう」

### ①自分の考えや思いを表現させるための工夫



キーワード以外の意見も、ICTを活用して視覚的に示すことで、よりよい合意形成が図れた。

### ②自分の考えや思いを実現につなげていくための工夫



合意形成したことを短期間に全員で協力して実践することで、学級の一員としての所属感を高められた。

## 中学校での実践

### ①自分の考えや思いを表現させるための工夫



協働学習ソフト(Jamboard)を活用し、他のグループと比較することで合意形成を図ることができた。

### ②自分の考えや思いを実現につなげていくための工夫



ボランティアで地域の落ち葉掃き活動をすることで、地域の一員である自覚が向上した。

## 桜川学びのエリアでの取組

### 小中連携研修会 6月



9年間を見通したカリキュラムやめざす子ども像について協議し、共通理解を図った。

### 小中連携研修会 9・10月



お互いの学校の学級活動の授業を参観後、工夫や手だてについて協議し、相互理解を図った。

### その他の小中連携での取組



小中合同でのあいさつ運動や児童会・生徒会Web連携会議など12項目に及び連携事業を通し、近い将来への期待感や地域に主体的に関わり貢献していく態度を涵養している。

## 研究経緯

※年間講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課教科調査官 安部 恭子 先生

- 4月 8日(木) 研究のはじめ 研究計画の全体共有 めざす子ども像の話合い
- 5月10日(月) 小学校研究全体会 昨年度までの取組の内容や学級会の流れについての共通理解
- 6月 9日(水) 学びのエリア研修① 保幼小中連携研修会  
講演会「学級活動で、学び高める9年間」
- 6月16日(水) 小学校研究全体会 研究授業・研究協議会① 6年3組 学級活動(1)
- 9月15日(水) 小学校研究全体会 研究授業・研究協議会② 2年4組 学級活動(1)
- 9月22日(水) 小学校研究全体会 研究授業・研究協議会③ 5年2組 学級活動(1)
- 9月29日(水) 学びのエリア研修② 小学校「学級活動」全クラス授業公開、協議会
- 10月27日(水) 学びのエリア研修③ 中学校「学級活動」全クラス授業公開、協議会
- 11月10日(水) 小学校研究全体会 研究授業・研究協議会④ 4年2組 学級活動(1)
- 11月24日(水) 小学校研究全体会 研究授業・研究協議会⑤ 1年1組 学級活動(1)
- 1月25日(火) 小学校研究全体会 研究授業・研究協議会⑥ 3年1組 学級活動(1)
- 2月 8日(火) 研究のまとめ 次年度に向けて

## 成果と課題

### ①自分の考えや思いを表現させるための工夫

- 学活ノートやキーワード、協働学習ソフトを活用することにより、一人ひとりが自分の考えをもって話合いに参加することができ、他の意見と比べながら自分の考えを根拠立てて発表する姿が見られた。
- 学級活動で合意形成したことを、全員で協力し実践していくことの積み重ねによって、学校・学級の一員としての意識や所属感が高まった。
- 小学校・中学校での連携をより密なものとし、共通理解のもと学級活動（1）に取り組むことで、9年間を見通した系統的な指導へつなげ、実践していく。

### ②自分の考えや思いを実現につなげていくための工夫

- 小中連携協議会において学級活動でめざす子ども像や9年間を見通したカリキュラムについて話合い、共有することができた。
- 小中合同あいさつ運動や児童会・生徒会Web連携会議等の小中連携の活動により、自分の近い将来への期待をもたせることができた。
- 話合いで合意形成した結果が実現していくことの積み重ねによって、次の学級会の話合いで自分の考えや思いを表現したいという意欲を高めた。
- 学びのエリアで連携し、成就感を味わえる活動を増やし、効果的な連携事業をより充実させていく。

## おわりに 板橋区立桜川小学校長 荻久保剛正

研究を始めて3年、楽しく豊かな学級・学校生活を創造するために考え、話合いを進めていく貴重な経験をさらに積み重ねました。昨年度作り上げた9年間の指導計画を基に、各学級とも児童の実態に合わせ新たな取組を行い、引き出しをさらに増やしました。GIGAスクール構想がスタートし、タブレット型パソコンを活用した新たな学級活動のかたちも提案し、作り上げてきました。自身との対話で明確にした考えを、タブレットを活用しアウトプットさせることで効率的に共有が図れ、一人ひとりが自分事として話合いに参加できる姿が増えました。さらにすすんで活動に取り組もうとする意欲を伸ばし、自他の将来に向けて思いを広げていけるような子どもたちを育てるため、今後もまい進して参ります。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、今年度も懇切丁寧にご指導・ご助言をくださった 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 安部 恭子 先生に心より御礼申し上げます。